

平成 23 年度実証運行結果の報告（利用実績）

（運行開始から平成 24 年 3 月までの状況）

1. 乗車人員及び運賃収入状況

●門前線

1 日あたり乗車人員 92 人（期間内総数 10,162 人）

1 日あたり運賃収入 14,000 円

●西畑線・萩原線

1 日あたり乗車人員 19 人（期間内総数 2,153 人）

1 日あたり運賃収入 4,555 円

2. 平成 23 年度収支

●門前線

運賃等収入 1,550 千円/経常経費 2,958 千円=52.4%

よって、市負担割合は 47.6%となる。

●西畑線・萩原線

運賃等収入 1,005 千円/経常経費 2,966 千円=33.9%

よって、市の負担割合は、66.1%となる。

（半年分の国庫補助金 500 千円を平成 23 年度内に収入するとして）

3. ご利用の傾向

●門前線

運行開始時点から、1 日平均約 90 人のご利用がある。

生駒駅からの乗車人員と他の停留所の乗車人員の比率は、69 : 31 となっている。（帰りのご利用が多い）

朝の 2、3 便、8 便（生駒駅 9:00, 9:30, 14:00 発）の利用者がやや少ないものの、各便まんべんなくご乗車いただいている。

運賃収入における、現金と回数券との比率は、41 : 59 となっている。（継続的なご利用が多い）

高齢者だけではなく、買い物、通勤の利用もある。

満席により、乗車いただけなかった例が数件ある。（9 便（生駒駅 14:35 発）、11 便（生駒駅 15:40 発）、13 便（生駒駅 16:45 発）など。大部分が生駒駅。）

●西畑線・萩原線

運行開始時点は、1日平均23人のご利用があり、その後減少傾向にあったが、3月に増加に転じている。(2月は1日平均18人。3月は1日平均19人)

せせらぎ～南生駒駅間からの乗車人員と他の停留所からの乗車人員の比率は、49:51となっている。(行き、帰り、同等のご利用がある。)

西畑線の4便(暗峠12:00発)、6便(暗峠15:25発)のご利用が少ない(1日あたり1.2人、0.9人)

萩原線のご利用が少ない(1便あたり1.3人)。

高齢者だけではなく、通学利用もある。また、ハイキング等観光利用の例もある。

運賃収入における、現金と回数券との比率は、60:40となっている。(観光等随時の利用が門前線に比べ多い。)

満席により、乗車いただけなかった例はほとんどない。

4. 利用促進に向けた方策

【運行開始前】

- ・自治会による集会等でのご利用の呼びかけ
- ・運行開始記事を10月1日付け広報紙いこまに掲載
- ・沿線自治会への時刻表の配布
- ・回数券の販売

【運行開始後】

- ・自治会による集会等でのご利用の呼びかけ
- ・市ホームページに時刻表や路線図を掲載
- ・公共施設等での時刻表の配布
- ・広告入り時刻表の作成・配布
- ・別途チラシの配布(青山台自治会で試行)

【今後】

- ・自治会によるご利用のよびかけの継続
- ・広報いこま、市ホームページへの掲載(利用状況、収支の見込 他)
- ・南地区については、沿線飲食店とも協力し利用を案内する。

(参考) 光陽台線の状況 (平成 24 年 3 月までの状況)

(平成 23 年 11 月 1 日から、運賃を大人 150 円 (旧運賃 100 円) に改定)

利用状況・運賃収入の変化

- 1 日あたりの利用人員 運賃改定前 216 人→改定後 161 人
(前年同時期の約 13.6%減)
- 1 日あたりの運賃収入 運賃改定前 17,400 円→改定後 22,300 円
(前年同時期の約 28%増)
- 年度利用人員 平成 22 年度 : 51,081 人→平成 23 年度 : 47,124 人
- 年度運賃収入 平成 22 年度 : 4,824 千円→平成 23 年度 5,239 千円
- 運行経常経費に対する市の負担割合

平成 22 年度 :

運賃等収入 4,824 千円/経費 10,450 千円=46.2%

よって、市の負担割合は 53.8%となる。

↓

平成 23 年度 :

運賃等収入 5,239 千円/経費 11,018 千円=47.5%

よって、市の負担割合は 52.5%となる。